

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

### G. ガリラヤへの第二の旅

#### 5. 種まき人とその種と四種類の土のたとえ話 (#091)

基本テキスト: マタイ13.1-9, 18-23 (並行テキスト: マルコ4.1-9, 13-20; ルカ8.5-8, 11-15)

1その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座られた。2人々は町から町へとやって来て、大勢の群衆がイエスの周りに集まつたので、イエスは舟に乗つてその中に座られた。人々は皆、岸に立つていた。3そこで、イエスは多くのたとえ話をして、こう言つた。

M 「よく聞きなさい！ MTある農夫が種を蒔きに出かけました。4種をまいていると、道ばたに落ちた種は足に踏みつけられ、 MT鳥が来て食べてしましました。

5ある種は岩地に落ちました。そこには土があまりなかつたので、すぐに芽を出しました。6しかし、太陽が昇ると、植物は焼けて枯れてしまいました。根がなく、水分もなかつたからです。

7 MT「ほかの種は、いばらの中に落ち、いばらが成長して植物をふさいでしまったので、実を結ばなかつた。」

8 MT「ほかの種は良い地に落ち、 M芽を出し、成長して、 MT実を結び続け、 M蒔かれたものより百倍、六十倍、三十倍に増えていきました。

9 Lこう言つてから、彼は叫びました。 MT「耳のある者はこれに注意を払いなさい。

18 Mそのとき、イエスは弟子たちに言つた。 M「このたとえがわからないのか。それでは、どんなたとえでも、どうしてわかるだろうか。」

」それでは、種まきのたとえ話の意味をよく聞きなさい。種とは神の言葉であり、農夫は言葉を蒔くのです。19 MTだれでも御国のことばを聞いて悟らないと、悪い者、すなわちサタンが来て、その人の心に蒔かれたものを奪い取ります。そして、信じて救われることがないようにするのです。 MTこれが道端に蒔かれた種です。

20 岩地に落ちた種とは、御言葉を聞いてすぐに喜んで受け入れる人のことです。21しかし、根がないので、長くは続きません。L彼らはしばらく信じますが、試練の時が来ると、つまずいてしまいます。 MT御言葉のために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。

22 「いばらの中に落ちる種とは、御言葉を聞くが、この世の思い煩い、富の惑わし、この世の快樂、その他いろいろな欲が御言葉をふさぎ、実を結ばせず、成長しない人のことである。」

23しかし、良い地に落ちた種は、正直で良い心を持つ人のことです。その人は御言葉を聞いて理解し、それを完全に受け入れ、しっかりと心に留めます。このような人は絶えず実を結び、蒔いたものより百倍、六十倍、三十倍の実を結びます。

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =<sup>MT</sup>、マーク=<sup>M</sup>、ルカ=<sup>L</sup>、ヨハネ=<sup>J</sup>、使徒行伝=<sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。** 旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤのどこか、ガリラヤ湖のほとり
タイムライン	5月（16番目の月）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	G. 第2回ガリラヤ巡礼
タイトル	5. 種まき人とその種と4種類の土のたとえ話

コメント：

の朗読では、イエスは10のたとえ話を連続して語り、長い物語、「すなわち」たとえ話を説教に取り入れられました。そのうち8つはマタイによる福音書の第13章に記録されており、マルコはさらに2つを福音書の第4章に含めています。説教はガリラヤ湖畔で始まり、弟子たちに今日のたとえ話を個人的に説明するために屋内に移動し、その後再び屋外に戻って残りのたとえ話を続けました。（イエスがたとえ話を使い始めた理由については、次のDKN朗読で考察します。）

種まき人と種、そして四種類の土というこのたとえ話は、イエスのたとえ話の中でも最も基本的なものです。イエスはすでに、ご自身の言葉を搖るぎない礎石、賢い人がその上に人生を築く石として描写しています（マタイ7:24-29）。誘惑に遭う際に、悪魔に対して申命記8:3を引用し、神の言葉を命を支える「食物、つまりパン」に例えています。ここでイエスは、四種類の土に「種」を蒔くこと、そして四種類の結果を得ることという比喩を用いて、御言葉が私たちの人生にどのように作用するかを説明しています。

ガリラヤ湖畔で大勢の群衆にたとえ話を聞かせた後、イエスは十二使徒にひそかにその意味を説明されました。ですから、私たちはイエスのこの重要な教えの意味を確信することができます。このたとえ話と、それに続く「雑草」のたとえ話は、イエスの詳細な説明が物語の中に含まれている二つのたとえ話です。それは、神の国での生活を理解する上でこれらのたとえ話が重要であるだけでなく、その内容も独特だからです。

ほとんどのたとえ話は、一つの基本的な要点を述べています。メッセージは細部にあるのではなく、イエスの聴衆にとっての要点の適用にあります。（この点については、DJN #092の「コメント」の部分で詳しく説明します。）しかし、最初の二つのたとえ話は、物語の細部が何らかの形で聴衆に直接関係する、いわば比喩として機能していました。これは、イエスのたとえ話を用いたコミュニケーションスタイルとしては典型的なものではありません。私たちは、あらゆるたとえ話の細部を比喩として解釈しようとすると間違いを犯しますが、これはよくある誤りです。

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

「類推型」のたとえ話の詳細を具体的に説明しました。なぜなら、これら二つのたとえ話は標準的な「要点」のたとえ話ではないからです。福音書記者たちは、読者全員がイエス自身の解釈を得て、これらの重要な教えの詳細を理解することができるよう、イエスの説明をそれぞれのたとえ話に。盛り込みました

十のたとえ話は、「種をまく人」、つまりイエスご自身と、イエスの名においてイエスのメッセージを宣べ伝える弟子たちから始まります。「種」とは良い知らせ、すなわち、罪深い人々の世に救い主であり王であるイエスを遣わされた神の愛と恵みのメッセージです。このたとえ話は、イエスが宣べ伝えた良い知らせを聞くことによって、個人の人生。における伝道の過程を描いています

福音を「種」と捉える概念は力強いものです。小さな種一つ一つに、DNAのプログラムと、最終的には多くの果実を生み出し、何年も生き続ける生きた植物や木へと成長させるのに十分な初期エネルギーが含まれています。イエスの言葉は「生きている」ものであり、それ自体が非常に生産的です。パウロは後に福音を「信じるすべての人々に救いをもたらす神の力」と呼びます。福音の一つ一つの種は、実に力強いものです。これは救いの神聖な側面であり、イエスについての良き知らせを通して私たちに与えられているのです。

すべての種子は生来、何度も自らを繁殖させる能力を持っていますが、その生産性は、蒔かれた土壤の質にも直接影響されます。これが救いの人間的側面、つまり私たちの反応です。イエスは四種類の土壤を用いて、イエスのメッセージに対する四つの異なる心と思いを示しました。四種類の土壤のうち、種を蒔く人が望む「多くの実」という結果をもたらすのは、たった一つだけです。これは厳しい統計です。一つの種類の「土壤」は、メッセージを心と心に受け止めず、真剣に考えることさえしません。三つの種類の「土壤」は、御言葉を魂に受け止めますが、最終的に実を結ぶのはたった一つの土壤だけです。

イエスはこのたとえ話を通して、人々にご自身のメッセージに対する反応について考えさせようとされました。四種類の土のうち、最終的に役に立つのはたった一つだけです。イエスはそれを「**正直で善良な心**」と呼びました。私たち自身の罪深さとキリストの必要性、そしてメシアとして私たちのためになされたキリストの救いの働きについて真実に向き合う誠実さこそが、イエスが「良い」土と呼んだものです。私たちはただ真実を認め、それに基づいて行動する必要があるのです。

善良であることは、自分自身が善良であることではありません。ただ、実際には全く善良ではなく、イエスの救いを深く必要としていることを正直に認めることです。この根本的な姿勢、まさに山上の教えの「あるべき姿」が、神の言葉への信仰を通して救われる鍵です。それはすべて、神の恵み、そしてこの恵みを切実に必要としていることを受け入れる謙虚さにかかっています。

応用：

ありがたいことに、神は私たちの心の「土」を変えることができます。固い土を耕し、雑草を取り除き、御靈によって土に水を注ぐことができます。実際、私たちが神に身を委ねるなら、神は私たちの人生におけるあらゆる経験を用いて、心の土を整えてくださるのであります。

最近、イエス様はあなたの心の中にどんな土壤を見ていると思いますか？

あなたの心をさらに肥沃にして、あなたの内に神の言葉が成長するように、神はあなたの中でどのように働いておられるでしょうか。

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

明日さらに実り豊かになるためには、今日、あなたは主に何を譲り渡す必要がありますか？